

『相乗型豪雨災害』 防災のネクストステップで 何に取り組む？



13:35～14:35

テーマ1

土砂・洪水氾濫の
対策及び避難

14:40～15:40

テーマ2

地震被害予測手法
と都市の地震対策

15:45～16:45

テーマ3

新しい生活様式に
おける避難と
道路ネットワーク

コーディネーター

長谷川 祐治

先進理工系科学研究科
准教授

コーディネーター

三浦 弘之

先進理工系科学研究科
准教授

コーディネーター

藤原 章正

先進理工系科学研究科
教授

16:45～17:05 総括

ファシリテーター 海堀 正博 防災・減災研究センター長/先進理工系科学研究科 教授

日時

2020年12月16日(水) 13:30～17:10

会場

Zoomを用いたライブ配信 (定員100名)

主催

広島大学防災・減災研究センター

共催

一般社団法人国立大学協会、
広島工業大学地域防災減災教育研究推進センター

後援

公益社団法人砂防学会中四国支部、公益社団法人地盤工学会中国支部、地理科学学会、公益社団法人土木学会中国支部、公益社団法人日本都市計画学会中国四国支部、広島県医師会

広島大学防災・減災研究センター <https://www.hiroshima-u.ac.jp/hrrc>

【お問い合わせ先】 広島大学防災・減災研究センター TEL:082-424-4312 (平日9:00～16:00)

『相乗型豪雨災害』防災の ネクストステップで何に取り組む？

平成30年7月豪雨災害から2年が経過し、その間、私たちは次々と襲い掛かる想定外の自然災害を経験しました。特に、短時間の豪雨によりたびたび引き起こされる洪水・内水氾濫などの水害は、これまでの対策を根底から考え直さざるを得ないものでした。また、コロナ禍による避難方法の見直しや、あまり経験を積んでいない地震への対応などを考えていかなければいけません。

住民・行政・大学の3者の視点から、『相乗型豪雨災害』だけでなく、これから考えなければならない新しい3つの課題に対してどのように取り組み、壊れないまちづくりのための防災、壊れても被害を抑えるまちづくりのための減災について考えます。

プログラム

開会挨拶

理事・副学長(学術・社会連携担当) 楯 真一

討論

テーマ1: 土砂・洪水氾濫の対策及び避難(60分)

コーディネーター: 長谷川 祐治 (先進理工系科学研究科 准教授)
 研究者: 水野 秀明 (九州大学大学院農学研究院環境農学部門 准教授)
 中谷 加奈 (京都大学大学院農学研究科森林科学専攻 助教)
 行政: 山本 悟司 (広島県土木建築局 砂防課 課長)
 地域: 出下 一教 (小屋浦地区住民福祉協議会 会長)

テーマ2: 地震被害予測手法と都市の地震対策(60分)

コーディネーター: 三浦 弘之 (先進理工系科学研究科 准教授)
 研究者: 田中 貴宏 (先進理工系科学研究科 教授)
 後藤 秀昭 (人間社会科学研究科 准教授)
 行政: 佐藤 伸樹 (広島県危機管理課 課長)
 地域: 柳迫 長三 (広島市防災士ネットワーク 世話人代表)

テーマ3: 新しい生活様式における避難と道路ネットワーク(60分)

コーディネーター: 藤原 章正 (防災・減災研究センター調査研究部門長/先進理工系科学研究科 教授)
 研究者: 繁本 憲文 (広島大学トランスレーショナルリサーチセンター 准教授)
 神田 佑亮 (呉工業高等専門学校 教授)
 行政: 神尾 博志 (東広島市危機管理課 課長)
 地域: 園部 貴之 (中国新聞社 メディア開発室)

総括

ファシリテーター: 海堀 正博 (防災・減災研究センター長/先進理工系科学研究科 教授)

閉会挨拶

防災・減災研究センター長/先進理工系科学研究科 海堀 正博

お申込み方法

防災・減災研究センターのページから「申込フォーム」にアクセス
<https://www.hiroshima-u.ac.jp/hrrc/news/61838>
 12月16日(水) 13時30分～17時10分 Zoomを用いたライブ配信

